

ラグビー
トップリーグ最年長

村田瓦 37歳 不屈の歴史

血と骨には「不屈」が刻み込まれている。肉体にはすなわち、歴史があるのだ。

幾多のけがを克服してきた。こりや、奇跡だ。そう言つと、トップリーグ最年長、この1月で38歳となるラグビーマンは笑うのだった。

「別に奇跡でもないんじゃないかな。ラグビーをやりたいから、負けたくないから、ここまでこられたんです」

アゴの骨折から、右肩脱臼、右膝靭帯損傷、親指脱臼骨折、肋骨骨折……。首からは90針も縫っている。

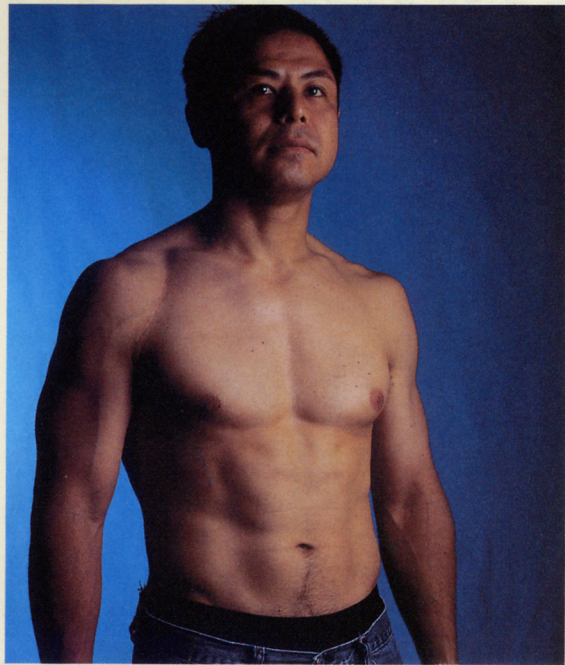
今シーズンも9月の試合でアゴを骨折した。アゴは3度目となる。「今回もばっくり割れて。ひどかった」

大手術のあと、リハビリに取り組んだ。病院では朝5時半にこっそりベッドを抜け出し、地下1階から13階までの階段を上り下りした。「最初は死にそうに辛かった。あごに響かないよう、忍者の如く、そろそろ」と

坂道タッシュを繰り返す。高気圧酸素治療も施し、不死鳥の如く蘇った。

クリスマススイブだった。秩父宮ラグビー場。2005年最後の試合、

途中交代で出場すると、寒風を背に



走り回った。そりや、全盛時の迫力はないけれど、シブく光り輝いたのだ。

その丈夫な肉体はなにゆえか。

「ま、ひとつには自然食ですね」

もともと親が健康志向だった。

おやつはお菓子ではなく、必ず果物

だった。野菜をよく食べ、毎日100割

ジュースを飲んだ。母から、なん

も一生懸命食べんね、と言われ続け

た。

いまも食事にはこだわる。ガム、

あめはノンシュガーだ。タバコなどもつてのほかで、酒もほとんど口にしない。肉類より、魚を好む。

妻の理奈さんが毎週日曜日、朝市

で新鮮な魚をたんまり買ってくる。

週の前半は刺身を食し、冬だと鍋と

なる。「アンコウ鍋はゼラチンが豊富

だし、キモはサイコーです」と言っ

た。プロテインなどサプリメントには

頼らない。「自然食でいいんです。

だから臓器も体も健康でいられるの

です」。理想は俊敏性に富む忍者の体だと真顔で言うのだった。

体が小さくとも、鍛え、信じ、考

え、挑んできた。6歳からラグビー

を始め、もう30年余となる。フラン

スのクラブでもプレーした。昨年、

日本代表にカムバックした。

自己管理と鍛錬の結果がいまの肉

体である。体脂肪率はここ10年、

「10割」を維持している。「筋肉の柔

らかさや体力は20代後半並み」とは

トレーナーの言葉である。

体のケアに神経を使う。試合前日

には必ず、鍼灸師の町田トレーナー

に体調チェックしてもらおう。1、

2時間、お灸とマッサージを受ける。

試合後はブルリカバリーだ。自

転車をこぐ。一枚歯の高下駄で散歩

することもある。「コアの体幹を鍛

え、バランスをよくするためです」

引退は。ゴールは。

「まだやり残したことがある。まだ

挑戦です。まだまだ進化している、

体も心も。究極の体は忍者です」

やり残したことはヤマハで日本

一だ。初夢はたぶん、富士山のとっ

べんに立つ、忍者姿のワタルなのだ

った。

WATARU MURATA

文/松瀬学 写真/スエイシナオヨシ

むらた・わたる/1968年1月25日福岡県生まれ。専修大学卒業後、'90年東芝入社。'97~'99年日本選手権3連覇。'99~'01年フランスのバイヨンヌで日本人初のプロ選手としてプレー。'01年からヤマハ発動機。'91、'95、'99年のW杯3大会出場。日本代表キャップ数41。HPアドレスはhttp://www.wata888.net/